

本種は国内では本州・四国・九州・伊豆諸島の新島に分布しているが(杉,1982), 採集例はそれほど多くないようである. 寄主はタケ類(イネ科タケ亜科:ハチク・マダケ・ヤダケ・ホテイチク)のタケノコである(吉松ほか,2005). なお, 兵庫県下でのこれまでの採集例は, 「3exs., 佐用郡三日月町下本郷(高蔵寺), 9. VII. 1983, 川副昭人採集」がある(川副,1987).

今回報告した個体は燈火採集で得られた. 採集地点は落葉広葉樹林と常緑広葉樹林の混交林が卓越する丘陵地帯にあり, その斜面にはスギの植林や竹林の小パッチが混在し, 谷筋には水田や畑地がみられた(写真2).



写真2 2011年2月6日撮影.

末筆ながら兵庫県に関する文献についてご教示頂いた高島昭氏および同定を確認し, 標本写真を撮影していただいた八木剛氏に厚く御礼申し上げます.

○参考文献

- 川副昭人,1987. 佐用郡三日月町の蛾覚え書. てんとうむし,10:1-10.
 杉 繁郎,1982. ヤガ科. 井上寛ほか編. 日本産蛾類大図鑑, 講談社, 東京.
 吉松慎一・櫛下町鉦敏・行徳直久・上和田秀美・佐藤嘉一・坂巻祥孝,2005. 日本においてタケ・ササ類タケノコを加害する鱗翅類. Jpn.J.Ent.(N.S.),8(3):91-97.
 (Yoshisuke UEDA 大阪府枚方市)

兵庫県養父市奥米地におけるキマダラルリツバメの記録

阪上 洸多

近藤・広畑(2007)によると, 奥米地では初の記録になるので, 報告する.

4exs., 兵庫県養父市奥米地 花と緑の希望王国, 27. VI. 2010, 午前10時~12時頃, 阪上洸多確認

道沿いに花が咲いているクリの木が何本かあったので, ゼフィルスかなにかいるかと思って, クリの木をつついてみると, ゼフィルスにはやけに小さな姿が見えたのだが, 飛び去ってしまった. しばらくしてつついてみるとまた飛びだし, 今度はとまってくれたので網に入れることができ, 見てみるとキマダラルリツバメだった. その後その周辺のクリの木で立て続けに3頭飛来してきた. 写真1の個体はその3頭目の個体で, 花にとまって幹のほうへと枝を歩き回り(写真2), 再び飛んでは花にとまるということを繰り返していて, 幹を歩いていたこともあった. とにかくよく歩くチョウだった.



写真1 クリに飛来したキマダラルリツバメ.



写真2 枝の上を歩くキマダラルリツバメ.

○参考文献

- 広畑政巳・近藤伸一, 2007. 兵庫県の蝶. 自費出版, 331pp.

(Kôta SAKAGAMI テネラル)